

主な野菜の主産地の状況と今後の 生産・出荷の見込み等について

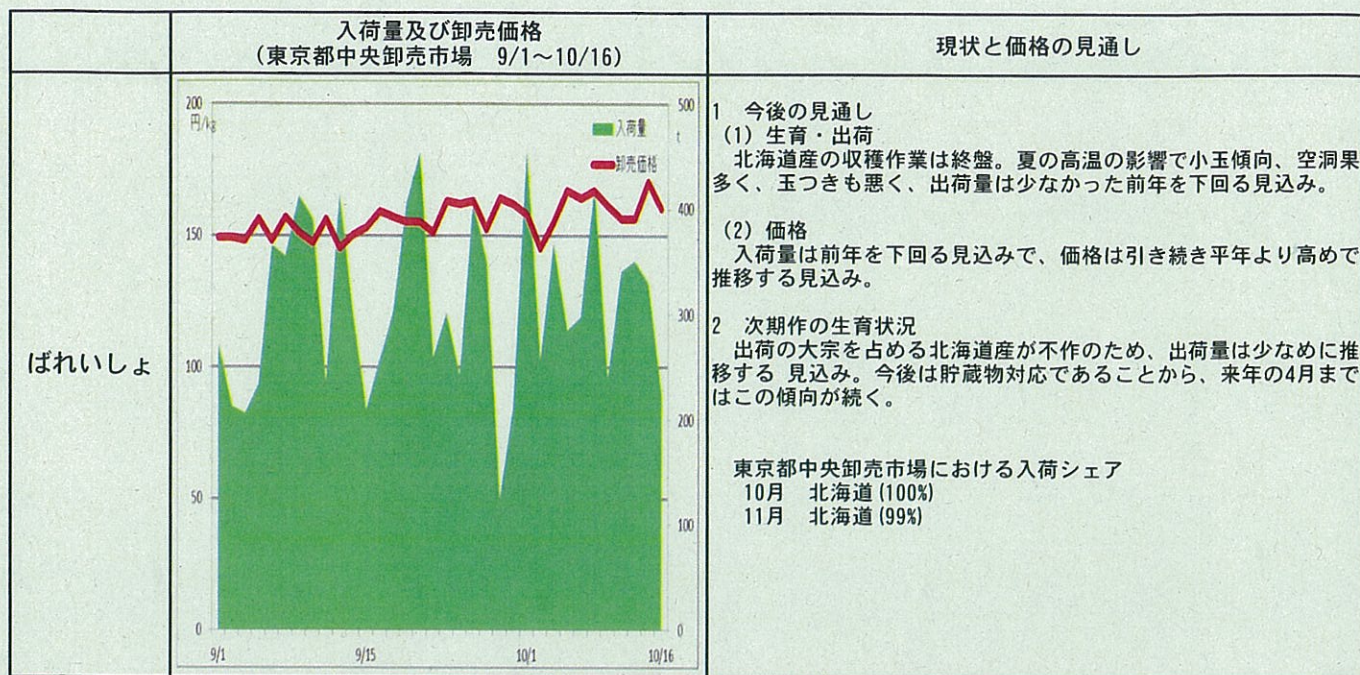
主な野菜の主産地の状況と今後の生産・出荷の見込み等について

	入荷量及び卸売価格 (東京都中央卸売市場 9/1～10/16)	現状と価格の見通し
キャベツ		1 今後の見通し (1) 生育・出荷 群馬産は順調な出荷となっているが、下旬は平年より早めの切り上がりとなり減少する見込み。 千葉産は、上旬からの出荷のものが、猛暑の影響で生育が遅れて下旬からの出荷となり、本格的な出荷は11月からの見込み。 (2) 価格 群馬産の切り上がり、千葉産の遅れなどから、入荷量はやや少なめと見込まれ、価格はやや高めか平年並みで推移する見込み。 2 次期作の生育状況 本格的な出荷開始となる千葉産は順調な出荷の見通し。 出荷が始まったばかりでこれから本格化する愛知産の生育も同様であり、出荷量はほぼ平年並みの見通し。 東京都中央卸売市場における入荷シェア 10月 群馬(50%)、千葉(21%) 11月 千葉(47%)、茨城(19%)、愛知(18%)
ねぎ		1 今後の見通し (1) 生育・出荷 青森産、秋田産ともに、夏の高温・少雨の影響で細めの傾向だが、出荷は順調で本格的な出荷となっている。 (2) 価格 青森産、秋田産など東北産は順調な出荷が見込まれるが、関東産の出荷が遅れていることから、価格は平年より高めで推移する見込み。 2 次期作の生育状況 11月中旬から本格化する埼玉産は暑さの影響で細め傾向であり、出荷量は前年並みかやや少ない。 東京都中央卸売市場における入荷シェア 10月 青森(27%)、秋田(13%) 11月 青森(18%)、埼玉(15%)
はくさい		1 現状 長野産は、天候の回復により平年並みの出荷となっているが、下旬は減少し、11月も前年を下回る見込み。 茨城産は、夏の高温・少雨の影響から生育が遅れ10月後半からの出荷となるが、11月上旬までは安定した出荷量としない見込み。 (2) 価格 長野産の減少や、後続の茨城産の出荷の遅れが見込まれることから、価格は高めで推移する見込み。 2 次期作の生育状況 引き続き主産地となる茨城産は、11月上旬は出荷が不安定だが、中旬からは順調な出荷となる見込み。 東京都中央卸売市場における入荷シェア 10月 長野(64%)、茨城(17%) 11月 茨城(87%)、長野(6%)

	入荷量及び卸売価格 (東京都中央卸売市場 9/1~10/16)	現状と価格の見通し
ほうれんそう		1 今後の見通し (1) 生育・出荷 群馬産・茨城産ともに、高温の影響で9月上旬まで播種作業が進まなかったことから、現在は前年より少なめの出荷量となっているが、天候の回復により生育が進み下旬には順調な出荷が見込まれる。 (2) 価格 天候の回復とともに入荷量の増加が見込まれ、価格は下旬には平年並みになる見込み。 2 次期作の生育状況 引き続き主産地となる群馬・茨城産ともに順調な出荷が見込まれる。 東京都中央卸売市場における入荷シェア 10月 群馬 (34%)、茨城 (18%) 11月 群馬 (38%)、茨城 (21%)
レタス		1 今後の見通し (1) 生育・出荷 茨城産は、少雨の影響で定植作業が遅れ、定植後の苗の活着がよくなかったことからこれまでは少なかったが、徐々に出荷量が回復し、10月18日の週からまとまった出荷となる見込み。 (2) 価格 茨城産の出荷の回復により、下旬には落ち着いてくる見込み。 2 次期作の生育状況 引き続き主産地となる茨城産は、生育も順調でまとまった出荷が見込まれる。定植が遅れたことから、切り上がりが遅くなる見込み。 東京都中央卸売市場における入荷シェア 10月 茨城 (60%)、長野 (27%) 11月 茨城 (71%)、香川 (8%)
たまねぎ		1 今後の見通し (1) 生育・出荷 北海道産の収穫作業は終盤。高温や多雨の影響で、小玉傾向かつ成歩率が悪いことから、出荷量は平年を下回る見込み。 (2) 価格 価格は、北海道産が不作であることから、平年より高めに推移する見込み。 2 次期作の生育状況 北海道産が不作であることから、出荷量は少なめの見込み。今後は貯蔵物対応であることから、来年の4月まではこの傾向が続く。 東京都中央卸売市場における入荷シェア 10月 北海道 (93%) 11月 北海道 (94%)

	入荷量及び卸売価格 (東京都中央卸売市場 9/1～10/16)	現状と価格の見通し
きゅうり		1 今後の見通し (1) 生育・出荷 埼玉産は、出荷が順調で前年より多い出荷量となっている。 群馬産は、夏の高温の影響による成り疲れで出荷量が安定せず、 平年の出荷量には届かない見込み。 (2) 価格 埼玉産の順調な入荷量が見込まれるが、群馬産が平年並みに届かないことから、平年並みかやや高めで推移する見込み。 2 次期作の生育状況 引き続き主産地である埼玉産は順調であるが、群馬産は、猛暑の影響を引きずり、出荷量はやや少なめの見込み。11月中旬に本格化する宮崎県産は前年より上回る見込み。 東京都中央卸売市場における入荷シェア 10月 埼玉 (30%)、群馬 (19%) 11月 埼玉 (34%)、群馬 (18%)、宮崎 (12%)
トマト		1 今後の見通し (1) 生育・出荷 千葉産は、猛暑の影響等で着果不良、小玉傾向で前年比3割減。 茨城産も出荷量が少なかったが、天候の回復により次第に増加傾向ではあるものの、平年の出荷量には届かない見込み。 (2) 価格 夏秋ものが平年より早めに切り上がり、関東の産地からの入荷量も平年より少ないと見込まれることから、価格は、熊本産の出荷が増える10月下旬までは平年より高めで推移する見込み。 2 次期作の生育状況 熊本産は、天候の回復により着果状況もよくなり、11月以降の出荷量は平年並みの見込み。千葉産は、11月は増えてくるもののやや少なめの出荷量の見込み。 東京都中央卸売市場における入荷シェア 10月 千葉 (24%)、茨城 (20%) 11月 熊本 (26%)、千葉 (20%)
なす		1 今後の見通し (1) 生育・出荷 高知産は、気温の低下とともに草勢が回復し出荷量が回復傾向にあり、今後は順調な出荷が見込まれる。 栃木産はピークを過ぎ出荷量は減少傾向。 (2) 価格 価格は、高知産の順調な入荷量が見込まれることから、平年並みかやや低めに推移する見込み。 2 次期作の生育状況 主産地である高知産は、順調な出荷の見込みで出荷量は平年並みの見込み。 東京都中央卸売市場における入荷シェア 10月 高知 (30%)、栃木 (23%) 11月 高知 (71%)、栃木 (8%)

	入荷量及び卸売価格 (東京都中央卸売市場 9/1～10/16)	現状と価格の見通し
ピーマン		1 今後の見通し (1) 生育・出荷 茨城産は、高温等の影響による着果不良、9月下旬の低温による肥大不足で出荷量は、10月末まで減少傾向。 岩手産は成り疲れや草勢が弱まったことから、出荷量は前年より少なめ、10月末には切り上がる見込み。 (2) 価格 入荷量が少なく見込まれることから、平年より高めで推移する見込み。 2 次期作の生育状況 引き続き主産地である茨城産は、11月上旬から出荷量が増加しその後も極端な減少はなく、平年並みに推移する見込み。 東京都中央卸売市場における入荷シェア 10月 茨城 (73%)、岩手 (14%) 11月 茨城 (66%)、宮崎 (14%)
だいこん		1 今後の見通し (1) 生育・出荷 北海道産は、高温の影響で病害虫や根腐れが発生、また天候不順で播種ができなかったことなどにより出荷量が減少し、中旬には切り上がる見込み。 青森産も高温による影響で病害虫の発生などにより、成品率が悪く出荷量が減少している。 千葉産は少雨の影響で生育が1週間程度遅れており、10月下旬から本格的な出荷の見込み。 (2) 価格 やや高めとなっているが、北海道産が出荷のピークを迎えることから、徐々に落ち着いてくる見込み。 2 次期作の生育状況 今後出荷が本格化する千葉産は、一週間程度の生育の遅れがあるものの順調な出荷の見込み。11月上旬から出荷開始する神奈川産は、生育遅れから回復し、中旬から本格出荷の見込みで、出荷量は、平年並みの見込み。 東京都中央卸売市場における入荷シェア 10月 北海道 (35%)、青森 (30%) 11月 千葉 (70%)、神奈川 (11%)
にんじん		1 今後の見通し (1) 生育・出荷 北海道産は、高温の影響で播種や生育不良がみられ、10月は出荷のピークだが、下旬から11月上旬までは平年より少なめの出荷量の見込み。天候の回復とともに品質は一時より回復し、切り上がりは平年並みを見込む。 (2) 価格 価格はやや高めとなっており、後続の千葉産が少なめと見込まれることから、この傾向はしばらく続くものと見込まれる。 2 次期作の生育状況 千葉産は、播種時期の高温・少雨のため発芽不良の影響があり、前年比8～9割の見込みで、全体的には平年より若干少なめの見込み。 東京都中央卸売市場における入荷シェア 10月 北海道 (85%) 11月 千葉 (56%) 北海道 (24%)



注) 東京都中央卸売市場における入荷シェア (%) は、10月は関東農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」、11月は前年実績である。

